

## 2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 青山学院大学 ] 担当教諭名 [ 横山 徹 ] ( 3年 6名 )

相手国・地域 [ メキシコ ]

海外学校名 [ Universidad Veracruzana ] 担当教諭名 [ 黒崎 充 ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	専門演習	美術教育	22

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	音楽が私たちをつなぐ
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	メキシコを代表する楽団「マリアッチ」、日本の伝統的な「祭り囃子(まつりばやし)」は音楽のスタイルは異なるが、国や文化が違っても、お互いを理解し国境を越えてつながることは可能である。お互いの国の伝統ある音楽を通して、言語を超えて一つになることができることを表している。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
今年で4回目となる。今回は新しい試みとしてメキシコ側からテーマの提案や、制作を始める試みを行った。第1回のスカイプ会議でメキシコの代表的な楽団「マリアッチ」が提案されその場でスケッチを見せ合うなど意見交換を行った。音楽と日常の関わり方の違いを異文化交流から考えることができた。絵を描き出すときのコミュニケーションとしてスカイプ会議を取り入れたことはお互いの考えや構想を理解することに有効であった。その後も細かい調整を主にフェイスブックで(JAM AOGAKU UV MEXICO)指摘し合った。お互いが同じイメージを持つ一つの作品を作り上げられたのはコミュニケーションのおかげだと思う。絵の上手さだけが作品の価値を表すものではないということを深く感じる活動であった。お互いの国が協力し、意見を出し合い一つの作品を作り上げる協働制作は、素晴らしい学習活動であると考えている。	アートマイルのことでなく、お互いの文化や伝統を知るための情報交換を日常的に行うことは不十分であった。その基盤を充実することがコミュニケーションの質的向上につながると考える。大学では義務教育段階では制限されることが多いSNSの交流が比較的可能であり、その効果を発揮するための学生への動機付けや仕掛けが必要である。 授業時間以外に集まって絵を描く予定であったが、カリキュラムや部活等と重なり全員集まる時間が取れなかったことが残念である。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
メキシコに関する知識はあまりなかったが、今回のアートマイルを通し、メキシコへの知識が増えたと思う。また、他国の文化を知り、日本と違うことが面白いと感じたが、私たち自身が自国に対して他国に説明できる能力が低いことも感じた。日本で当たり前のもも世界では違うことが多くあった。授業外においても、相手国について調べたり、自国の文化について考えたりすることができた。今メキシコについて関心を寄せることで満足いくように意欲を持続させ、完成させることができた。	目標は絵を描くことであるが目的は協調学習方法の研究でありその一環として成果物完成に至るまでの過程を大切にしたい。プログラムを複数年継続する場合気をつけていることはできるだけ過去の経験は参考にするがルーチンの作業になったり、ステレオタイプにならないように配慮している。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	5月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベラクルス大学講師で現代美術作家矢作隆一氏による講義「メキシコの現代美術について(5月)</li> <li>スカイプ会議による自己紹介(6月)</li> <li>黒崎先生による講義(メキシコ文化、ベラクルス大学アートマイルメンバー紹介)自己紹介(9月) アートマイルから届いたシートをベラクルス大学にEMSで郵送(約2週間で到着)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代美術作家でもある講師の先生からメキシコの美術の歴史をパワーポイントで講義していただく。宗教的な背景やメキシコの文化に対する興味・関心を高めることができた。</li> <li>英語での自己紹介の後テーマについて約2時間のスカイプ会議を行った。</li> <li>黒崎先生の講義では、メキシコ文化に加え、ベラクルス大学での日本語の授業風景やアートマイルメンバーの紹介などを行っていただき、異文化理解に大変役に立った。</li> </ul>	専門演習 4時間
共有 テーマ学習	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケッチ考案</li> <li>スカイプ会議(構図に関する意見交換)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本とメキシコ、お互いに絵を考え合い、意見交換を行った。</li> <li>メキシコ側から提案されたテーマにあわせ、日本側も、メンバーと話し合い、どんな絵を描くのか積極的に案を出し、話し合うことができたまたノンバーバルコミュニケーションであるボディラッゲジーや踊りなどの身体表現も重要である。また、スカイプ会議で臨機応変にスマートフォンによる適切な動画や画像を表示することで言葉を補う上で有効であった。</li> <li>スカイプ会議では、自分たちの考えをしっかりと伝えあい、良い作品にしようとする気持ちが高まっていったと考える。</li> </ul>	専門演習 2時間
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイディアアスケッチ考案</li> <li>スカイプ会議(構図に関する意見交換)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メキシコから送られて来た下絵をもとに、アイディアスケッチを持ち寄り話し合いを行い、スカイプ会議で大まかな構図が決まった。決定後はそれをメキシコと共有しお互いの長所を生かしながら細部の調整を行った。</li> <li>相手側が日本の音楽に対して抱いているイメージが私たちの認識とは少し相違があり、そこが難しかった。</li> </ul>	専門演習 2時間
創造 壁画制作	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>メキシコ側が先に描きはじめる。当初の構図通りに行かない部分もあったので、微調整を加えながら制作に取り掛かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間内で計画をしながら、順調に進めることができた。プロジェクタで映し、下絵を木炭で描いた後、彩色を行った。塗り方なども工夫し、仲間と協力することができた。また、制作時間を通して様々な話し合いをし、仲を深める良い機会となった。</li> <li>一体感を表現した構図、人物の表現、色彩の統一と対比を相手側の絵に合わせ修正しながら制作をした</li> </ul>	専門演習 13時間
評価 振り返り 自己評価	3月	SNS を利用した年間のプロジェクトの振り返りを行う予定。		専門演習 1時間

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	3.8	テーマに沿ってマリアッチに対応した日本の音楽や楽器について調査を行った。自国の理解が深めるだけでなく相手に自国のことを伝える方法を考えた。
異文化の理解	A	4.5	ベラクルス大学の先生の講義を通し、メキシコの現代美術やメソアメリカにおける古代文明の理解を深めることができた。SNSを通じた同世代のメキシコの学生との交流からメキシコに対する興味・関心を持ち、世界的な視野を広げることができたこと、また、異文化の面白さなどを気づく機会になった。メキシコのマリアッチに代表される、音楽集団を持たない日本との共通点を作ることに苦心した。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	3.3	スペイン語、英語、日本語など多様な言語で交流を行うことができた一方で細かなニュアンスなど内容を深くする交流の難しさも感じることができた。お土産などを通し距離を縮めることができた。日本の学生はメキシコの学生と比較して個人の自己発信を積極的に行わない傾向にある。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	3.5	スカイプ、フェイスブックなどのSNS未経験の学生もいたが国際交流には欠かせないものである。ノンバーバルコミュニケーションであるスカイプは交流を実感できるアイテムとして大変有効である。学期、時差の関係でスカイプ会議を行うタイミングの調整が課題である。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	3.8	グループ内で協力し、楽しみながら活動を行うことができた。また、相手国とは、SNSを通じた交流が主体であったが、土産を交換したりして交流することもできた。直接交流することができなかつたのが残念であったが、相手国のメンバーの名前を覚えようと努力し、人間関係をつくっていけるよう工夫した。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4.3	計画を立て、自分たちがそれぞれできることを協力して活動することができた。個性に合わせた役割分担を自然体で行うことができた。
学習を追究する意欲	B	3.7	授業外においても、相手国について調査したり、自国の文化について考えたりすることができた。メキシコについて関心を寄せ、意欲を持続させることで絵の完成の目標に向かって努力した。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	B	3.7	スペイン語やアメリカとメキシコの関係性など興味を持って学習することができた。 相手の絵に合わせて人物の配置やポーズ、色彩の統一と変化、夜と昼の陰影の調子、背景のグラデーション効果を絵に反映し表現した。人物をシンボリックに大きく表現したが、背景の建物に人がいないためか若干寂しい感じになった。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	4.0	客観的に作品を見るという力が身についたと考える。絵を通して異文化を感じることもできた。色の使い方など細かい点の違いなどに気付くことができた。

※成果の評価数値は学生の自己評価の平均値を表している。